

サタデー コラム

岐阜に根差した放送に期待

残暑厳しい折、遠い昔の「思い出の夏」がよみがえりました。55年前、伊奈波中学校2年当時の夏休みです。生物クラブに在籍しており、岐阜市曾我屋と本巣郡北方町の境にある「タベが池」の調査に自転車を通いました。池の測量から生息する魚をはじめ、動植物の総合調査を実施し、理科の面白さ、奥深さに驚嘆する日々でした。転居で9月から加納中学校に編入しましたが、秋に生物クラブの研究が賞を取ったと喜びの報告を受けました。

この調査の拠点は池の縁にある「ラジオ岐阜中継局」の軒下をお借りし、これを機に放送に興味を持ちました。その後、2013年1月から岐阜放送の番組審議会委員を7年半拝命し、

秋田屋本店社長 中村源次郎氏



なかむら・げんじろう 1951年、岐阜市生まれ。博士(医学)。岐阜南法人会長。県製菓協会会長。県薬事審議会委員。県収用委員会委員。みつばちの家庭理事長。県養蜂組合連合会長。岐阜市笑いと感動のまちづくり実行委員会会長。県フエニング協会会長。県立岐阜北高校同窓会長。

4年間の委員、副委員長を経て3年半委員長を務めました。このたびその任を終え、6月審議会での退任あいさつは感無量でした。

番組審議会は、放送法に基づく機関で、諮問事項に答申したり意見を述べたりして、放送番組の適正化を図ることを使命としています。ほぼ毎月開催され、番組について審議します。番組の視聴をはじめ準備に労を要しますが、放送が好きで、楽しく取り組みました。そして何より岐阜放送スタッフの放送に臨む情熱に心打たれました。

岐阜放送は、1959年伊勢湾台風の大被害を受け、地域情報を正確に伝える放送局が熱望され、開局しました。62年にラジオ岐阜、その6年後に岐阜テレビが誕生しました。岐阜放送は「岐阜ファースト」のスタンスで、特に災害時は県内各地の情報がタイムリーに報道され、防災に大きく役立っています。地域局としてのきめ細かな生活情報や話題を知ることができ

ます。さらにラジオ・テレビ兼営局であり、両メディアから身近な情報に触れることが可能です。

平日放送の「ぎふサテ」は、ニュース番組として身近な話題に親近感が持て、これこそ地方局の神髄です。そして岐阜放送の開局から尽力され、今も活躍の杉山幹夫元会長が出演される「昭和がらくた劇場」は元会長のキャラクター、岐阜の知識、岐阜への思いがひしひしと伝わり毎回見逃せません。岐阜を愛する県民必見の番組です。

出張から帰ってくると目に入るのが、上加納山に立つぎふちゃんの送信所、愛称「トワ・エ・モアタワー」です。金華山頂の岐阜城と共に、故郷岐阜のシンボルとしてライトアップされ、さんざんと輝いています。タワーを仰ぎ、岐阜の誇り「岐阜放送」の良き番組作りを期待し、末永くファンとして視聴し続けていきたいと思ひます。